

平成29年度第2回豊田市子ども読書活動推進協議会 議事録

日 時：平成29年12月15日（金）午後1時55分～午後3時40分

場 所：豊田市中心図書館6階会議室

出席者：委 員 10名

関係課 市民活躍支援課、次世代育成課、子ども家庭課、保育課

事務局 6名

指定管理者 1名

（1）第2次豊田市子ども読書活動推進計画の検証について

委 員：「子ども読書活動の推進に関するアンケート」について。

利用回数も調査した方が良いのではないか。

事 務 局：今後のアンケート実施の際、検討する。

委 員：【重点施策 「テレビを消して本を語ろうの日」の促進】について。

スマホを持たない世代がターゲットなのか。

事 務 局：0歳～18歳までがターゲットで、世代の限定はしていない。

委 員：【課題3 絵本の貸出冊数の減少】について。

スマホなどのメディアが関係していると思うが、課題は、そういった変化や影響があると踏まえたうえで、書かれているということが良いか。

事 務 局：お見込みのとおり。

委 員：【課題7 「読書ノート」の保護者への啓発不足】について。

こども図書室の利用者に読書ノートのことを聞いたが、知らないと答える保護者が多い。小学校の授業参観で、先生から保護者伝えるなどの啓発は可能か。

事 務 局：参観日等での啓発については、学校教育課と検討する。

委 員：小学校低学年と高学年・中学生ではかなり考え方が変わってくる。

細かい区分けを設けてアンケートを行った方が良いのではないか。

事 務 局：今後は世代別の集計も検討したい。

委 員：保護者が本を好きになれば、その子どもも本を好きになる可能性が大きくなるので、保護者を本好き、読書好きにすることも大切ではないか。

事 務 局：「赤ちゃんのための絵本講座」という保護者向けの講座を行っている。保護者が本を読んでいる姿を子供に見せることの大切さも伝えていきたい。

(2) 第3次豊田市子ども読書活動推進計画について

- 委員：【指針2 方策①乳幼児のための子ども読書活動の推進】について。
計画自体で“子ども読書”と謳っているため、方策では、“子ども”という文言はいらぬのではないか。
- 事務局：表記について検討する。
- 委員：【事業15 中央図書館でのティーンズ世代への読書支援】について。
具体的に、どのような支援を想定しているか。
- 事務局：ビブリオバトル（書評合戦）と、中高生向けの読書会を考えている。
1人で読書をするのではなく、多くの人と関わり合いながら読書をするというイベントを検討している。
- 委員：高校生へのアンケートでも、1か月の平均読書冊数は1人1.5冊程度で、読書離れが進んでいる。それを止める方法として、生徒がポップを書いたり、先生のおすすめ本コーナーを設置している。大きな成果はあまりないが、良い企画だと思う。
- 委員：【方策①乳幼児のための子ども読書活動の推進】と
【方策②園・小中学校における子ども読書活動の推進】について。
乳幼児と園児の違いは何か。
- 事務局：一般的な幼児教育は3歳からのため、“園児”とは3歳～小学校入学までの子どもをさす。乳幼児は0歳～2歳で、その中でも幼稚園・こども園に行っている子どももいるため、年代的に重なる部分がある。
- 委員：【めざす姿 主体的に読書に親しみ、本を活用する子ども】と
【指針3 本の活用能力を身に付ける機会の創出】について。
今後は新学習指導要領等を意識し、授業を行っていきたい。また、本を読むだけでなく、調べる能力を身に付け、必要な情報を選び取ることができる力を培っていく必要があると考える。
【事業25 調べ学習応援講座】について。
具体的に、どのようなことを実施するのか。
- 事務局：夏休みを中心に「調べ学習応援講座」を、小中学生・大人向けに開催している。また、学校へ出向いて本を使った調べ学習の方法等を教える講座も実施している。
- 委員：近隣市の図書館では、ティーンズコーナーに読書感想文の掲示や、図書館職員のおすすめ本コーナーがあった。本を読むきっかけになれば良いと思う。
- 事務局：当館にも「図書館文芸部」という中高生主体のボランティアがいる。

世代が近い人が情報を発信した方が、受け手も受け取りやすいと思うので、今後活動を拡大していきたい。

委員：メンバーは何人で、活動頻度はどれくらいか。

事務局：現在、メンバーは17人で、月1回の活動をしている。

委員：【事業28 子どものためのレファレンスの充実】について。
子ども”とついていると、利用しにくいティーンズ世代の子もいるのではないか。

事務局：表記について検討する。

委員：平成30年1月19日から自動貸出機・返却機の運用が始まるが、カウンターは子どもとコミュニケーションを取る場所としたい。また、機械が導入されるからこそ、今まで以上に子どものためのレファレンスの充実をしてほしい。

事務局：児童コーナーのカウンターの改修を予定している。自動貸出機が導入された後も、子どもに寄り添いコミュニケーションがとることのできる場所としたい。

委員：子どもの関心を集めるために、AIなどのロボットを使って貸出を行うのはどうか。

事務局：今の図書館では、ロボットを入れるということは難しい。今はまだ紙の本を利用者へ繋ぎ、デジタル化などについては慎重に行うべきだと考えている。

委員：放課後児童クラブの支援員に啓発を行うことが重要だと思うが、市が行っているところや、民間が行っているところに、団体貸出を行うことは可能か。

次世代育成課：現在、放課後児童クラブは約65あるが、読書の時間を持つかどうかは、個々のクラブに任せられている。支援員向けには、読み聞かせの講座を開催している。

事務局：放課後児童クラブへの団体貸出の制度はある。ただし、市が設置したクラブへの貸出は可能だが、個人への団体貸出は行っていない。

委員：「第63回学校読書調査 子どもの1か月の平均読書量」
【小学生（4～6年）11.1冊 中学生 4.5冊】について。
小学生と中学生で、数字にかなり差があるが、何が原因か。また、減少を止める方法はあるか。

事務局：中学生への調査では、部活動が忙しい・宿題が多いため、本を読む時間がないという意見が多くあった。スマホ等の影響もあると考える。学校の取組事例を参考に、対策方法を検討していきたい。

委員：【事業15 中央図書館でのティーンズ世代への読書支援】について。

ビブリオバトル等を行う際、参加者を集める方法が重要になると思う。学校の長期休暇の課題の一つとすることができるなら、より取組やすいのではないか。

【事業30 読書指導者・読み聞かせボランティアの育成・活用】について。新たなボランティアの育成は、どのように行うのか。

事務局：学校の課題とすることについては、学校に相談する。学校で行う「基礎講座」というものがあり、学校側も講座をきっかけに新しいボランティアを募集することができる。

委員：小学校高学年の生徒が、1年生に読み聞かせをするというのも良いのではないか。

事務局：取組について検討する。

委員：【めざす姿 主体的に読書に親しみ、本を活用する子ども】について。まずは本に親しむことが大切だと思う。また、本の活用についても、何か疑問に思った時に本を使えるようになると良い。

委員：【事業30 読書指導者・読み聞かせボランティアの育成・活用】について。

学校づくり推進課で地域学校共同本部の立ち上げ行われており、その読み聞かせのボランティアにも、講座に参加してもらえると良い。

委員：【事業5 外国籍児童のための図書資料の充実】について。英語科目の授業化もあり、外国語の図書資料充実は、外国籍の子どものためだけではないと思う。

【指針2 本に親しむ機会の創出】と

【指針3 本の活用能力を身に付ける機会の創出】について。

デジタル書籍も“本”に含まれるため、“読書”と“本”という言葉の使い分けをするべきである。指針2は“本”ではなく“読書”が良いのではないか。

事務局：表記について検討する

以上

5 閉会